

# 探究通信

2015年(第5号)

富山県立高岡高等学校

2016年3月発行

編集 探究科学委員

## ～海外研修 in アメリカ～

3月2日から3月9日までの8日間で行われた海外研修について報告します。

### 平成27年度高岡高校海外研修日程

	am	pm
3月2日	日本出発	移動
3月3日	高校訪問	ボストン美術館見学
3月4日	ハーバード大学	edX企業訪問、マサチューセッツ工科大学(MIT)(キャンパスツアー、懇談)
3月5日	ハーバード大学	ハーバード大学キャンパスツアー
3月6日	ハーバード大学	ボストン市街班別見学
3月7日	移動	国際連合、メトロポリタン美術館見学、富山県人会との懇談
3月8日	アメリカ出発	移動
3月9日	移動	日本到着

## ハーバード大学～Take risks!～

(ハーバード大学でのプレゼンの様子)

ハーバード大学に3日間通い、ハーバード大学の学生に向けて、私たちが行った課題研究を英語でプレゼンテーション(以下プレゼン)した。また、英語でプレゼンをする時に必要な技能を身に付けるために、様々な活動を行った。例えば、身の回りにある物のユニークな使い方を自分たちで考え、それをグループで発表する活動である。筆箱をスマホ、時計をタイムマシンと見立てて発表した。この目的は、語彙を増やすことであり、積極的に新たな単語を使った。この活動を通して、人前で自信を持って発表することや失敗を恐れないことなどを学ぶことができた。アメリカでは、自分の考えを聞き手にわかりやすく伝えるために、単に覚えたことをスラスラと話すことではなく、導入で聴衆の興味を引き付け(rhetorical question)、伝えたい言葉を強調(stress)、そして間を取る(pose)ことがより要求された。授業をしていただいた先生がおっしゃった言葉“**Take risks.**”を念頭において活動することで、3日間で私たちは日本にいた時とは違う自分になることができた。また、プレゼン後の質疑応答の時には高岡高校生も積極的に質問をし、活発なディスカッションをすることができた。



## 国際連合

今回の国連見学ツアーを通し、学校の授業で学んだ知識をより深いものにできた。国連には世界各国からの平和に関する送りが物が展示されている。日本は世界の硬貨を溶かして作った鐘を寄贈している。なんとこの鐘は高岡銅器なのだ。私たちの住む富山県の作った鐘であることに驚きと誇りを感じた。また、すべて英語でのツアーの中で、積極的に英語で質問する姿も多く見られた。戦争の悲惨さや、世界の貧困の状況などを再度認識し、世界についてももう一度考える良い機会となった。



(日本が寄贈した鐘)

## 高校訪問

私たちと年代のアメリカの高校生はどのように学んでいるのだろうか。初めはアメリカの学校の授業や校風についての疑問でいっぱいだった。しかし、アメリカの高校生に彼らの学校を案内してもらうことで、アメリカの授業の様子や学校の様子を知ることができた。アメリカの授業スタイルは生徒から先生へ疑問を投げかける形で、日本に比べディスカッションが多く、和気藹々とした授業が印象的だった。またアメリカの高校生は日本人以上に笑顔で、とても気さくで誰にでも声をかけ挨拶をしていた。それが学校の雰囲気より明るいものにしていて。彼らが主体となることで、のびのびとした学びの姿勢を作っているのではないだろうか。アメリカの高校生から学ぶことが多かった一方、日本人のアイデンティティ(時間に律儀である点、礼儀正しい点など)も大切であると感じた。



## 企業訪問

私たちが見学した edX は、MIT と

ハーバード大学によって創立され、世界中の学生に無償で、多岐な分野にわたる大学レベルの授業を提供している会社である。そこで、私たちが社員なら、どのようにして会社に貢献できるのかについてディスカッションを行った。この経験から、自分の意見を話し、相手の意見を聞き入れると新たな視点を得られるということを学んだ。日本には「三人寄れば文殊の知恵」**”Two heads are better than one.”**ということわざがあるが、それを実感することができた。

## 富山県人会

前半はアメリカで活躍されている富山県出身の方に向けて、プレゼンと質疑応答を英語で行った。今回のプレゼンではハーバード大学で学んだことを存分に生かすことができた。会の後半では食事をしながらの懇談会だった。これまで英語を用いて現地の方と交流してきたので、日本語での交流は新鮮だった。日本語だからこそ、どんな仕事をしていて、どんなことを考えているのかなど、詳しいところまで知ることができた。県人会の中には本校のOB・OGの方もおられ、地元の富山について盛り上がっているテーブルもあった。海外留学や進路相談などにも気軽に応じてくださり、有意義な時間を過ごすことができた。将来、私たちも世界を舞台に活躍し、未来の高岡高校生にこのように何かを伝えていきたいと思った。



## 摩天楼に叫べ!

最終日の早朝、希望者がニューヨークのセントラルパークで個人の目標についての誓いを摩天楼に向かって叫んだ。男子はセントラルパークで青年体操も行った。これは前夜に、生徒の希望で実現させてもらったことだった。プログラムプラスアルファとして、自分たちで研修をより良いものに創り上げることができた。ひとりひとりが自分の目標を再確認することができたので、その実現するための原動力となるように自らの生活を変えていかなければならないと感じている。



～編集後記～海外研修は私たちの人生にとって一番衝撃的なイベントであった。この研修まで日本から出たことはなく、海外は未知の世界そのものであった。実際海外に行ってみると、日本にいるときには気付かなかった日本の良さや、移民の国アメリカであるからこその人々の寛大さを実感した。また、自分の想いを発信するためには、自分自身のことや住んでいる地域や国について知っていることが大切であると強く感じた。世界を知った私たちはこれから日本を、そして世界をよりよいものに変えられるよう行動しなければならない。(伏江、佐野 記)